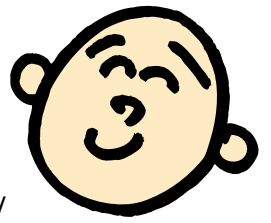




たかやんの市議会報告



新座市市議会議員 たかやん (たかむらともや)

ホームページ <http://www.takayan-world.com/cheeringparty/>

2008年 2月発行

③ お金をかけないで 新座を救う七か条

第三条 「ゴミを捨てないで、一つだけ拾う」
なあんだ。と思うかも知れませんが、新座の街にはあちこちにゴミが落ちています。道路は勿論、駅、そして黒目川にも、学校にも、公園にもゴミは落ちている。ひどいものになると林の中に冷蔵庫から車まで落ちている。誰かが捨てるから落ちているのです。これはもう教育(家庭も学校も)に委ねるしかないのでしょうか、あのゴミが無ければ...新座の環境は随分よくなります。「ゴミを捨てない!」ことはタダでできます。経費ゼロです。みんながちょっと気をつければ、それでいい。わが町新座を綺麗にしたいという気持ちさえあればそれができます。

「汚いところに幸せは来ない」と言います。だから日本人は暮れに大掃除をする...神様は綺麗なところが好きなのです。

ゴミを出さない為には、食べ物を捨てないことも重要です。食べ物は食べる。残さないで食べる。(お米一粒には七人の神様がいます)あるいは残らないように分量を考えて作る。盛る。それが重要です。なるべく賞味期限が切れそうなものから買い物をするのも環境にとっては大事ですが、基本的に捨てないようにするにはどうしたらいいのかを考えれば分かります。捨てればゴミ 食べれば栄養です。かといって、全部残さず食べようとすると危険ですから...作る方の工夫が必要ですね。

③ 愛煙家の方へ

駅でも公園でも一番多いのは煙草の吸殻です。これがどうにもならない。軍手をしていても拾うのには勇気がいります。どうか煙草の吸殻は自分で携帯して欲しい。道路も川も灰皿ではない。みんなが捨てているから...というのでは余りにも悲しい。

煙草の吸殻を携帯するのにもお金はかかりません。携帯用灰皿を買う以外は経費ゼロ。多分、そうしているうちに、それが習慣となり道路には捨てられなくなります。道路の煙草に違和感を感じるようになります。愛煙家の心がけ次第で可能なこと。昔、ハイライトを一日50本吸っていた僕が言うのだから間違いはありません。

「汚いところに幸せは来ない」裏返しすると、汚す人は幸せになれないということです。そんなことで人生のツキを落とさないようにしたいものです。

③ ゴミを一日一つだけ拾う

黒目川にビールの缶が落ちていました。母さんが「家に持って行って捨てよう」と拾いました。公園のゴミを拾う経験から(そんなことをしていたらキリがない...)そう思いましたが、(待てよ、こうやって毎日一つずつでもゴミを拾っていくことが大事なのかも知れない)そう思いなおしました。一人で全部のゴミを拾うことは難しい。それが100人でもキリがない。でも10万人が一日10万個のゴミを拾えば...新座は間違いなく綺麗になる。そう思いました。そしてやってみると結構気分がいい。楽しいのです。一日一個だけと決めていいるから、残りのゴミは気にしません。一個で満足するから、次の日もできる。楽しいことは伝染します。毎日一個ゴミを拾う人が、ゴミを捨てる側になることは考えられませんから、この運動が広がることは新座市からゴミが減ることを意味します。この運動に掛かる経費はゼロ。挑戦する価値はありそうです。どんな運動もまずは一歩から。毎日新座のゴミを一つだけ拾う作戦に参加することが新座を救う一歩になります。

(最近、黒目川のゴミが減ってきました!)